

新しい時代の 生き方・働き方を考える



「蚕(カイコ)を育てる」～ぐんまの人材育成とキャリアデザイン～

群馬県は、現在でも全国一の養蚕県です。近代以降のぐんまは、養蚕によってつくられた「繭」を原料とする製糸業が発達し、経済と産業を支えました。明治5年(1872年)には、日本で最初の製糸所である「官営富岡製糸場」がつけられ、今、世界遺産登録に向けた全県的な取り組みが行われています。

昭和30年代初めの頃には、ぐんまの多くの地域において養蚕が盛んに行われていました。農家は、子どもも大人も総動員で「蚕」を育てました。「蚕」は幼虫になってから桑の葉を食べて成育し、5回の脱皮をくり返して繭をつくります。「蚕」を育てるために重要なものは、清々しい空気、季節に応じた適温、そして新鮮な桑の葉です。この条件を充たし環境を整えるためには、「蚕」を育てる人の細やかな注意と厳しい労働が必要です。農家の人たちは、「蚕」を「お蚕様」と呼び、繭をつくる時期を迎えると、寝起きしている部屋を「お蚕様」のために提供します。このように大事に育てられた「蚕」は、農家の人たちの願いに応え、光り輝く真白で良質な繭をつくってくれます。

「蚕」を育てることは、「人材の育成」に通じるものがあるように思います。ぐんまは、明治時代に地域の人材を地域みんなで育てた歴史を持つ教育県です。特に、吾妻農学校をはじめとする実業学校の設立にみられるように、地域の特色に応じた産業人やリーダーの育成に、地域の人々が力を合わせ努力しました。

現在、産業・経済及び雇用の構造的変化や厳しい経済情勢により、日本人の生き方や働き方が大きく変わろうとしています。このような中、「自分のキャリア(生き方・働き方)は自分でデザインし、個人・地域人・職業人として統合的な自己成長・自己実現に向かって必要な能力の開発・向上を図る」というキャリアデザインの考え方に基づいた人材育成が、今後ますます重要となると思います。「蚕」が良質な繭をつくるように、次代の地域を担う優れた人材が育てられ、新しいぐんまの地域の発展に貢献することを期待しております。

群馬キャリアデザイン支援事業に期待する

高崎健康福祉大学短期大学部専任講師 眞保 智子

20世紀は、豊かさを追い求め、ひたすらキャッチアップに努めた時代でした。そして21世紀の現在、わたくしたちは豊かになり、世界一の長寿国である日本に暮らしています。健康で長生きができる、豊かな国に暮らすわたくしたちですが、一方で豊かになったゆえに直面している様々な変化に、対峙していかなくてはなりません。わたくしたちの国の総人口は、2006年に1億2774万人でピークに達し、その後減少に転じると推計されています。推計どおりならば、少なくとも今世紀いっぱいには、人口の減少と高齢化が同時に進行します。これは、わたくしたちが、長年慣れ親しんだ様々な慣行が変わっていく原因の一つになっています。子育てや学校教育、企業等での働き方や賃金制度、退職後の生活設計、地域での生き方など、どれ一つとつてもここ数年間で大きな変革の波に晒されています。今、わたくしたちは、それぞれの立場で自らの生き方の針路を問い直す時期なのかもしれません。

求められる「キャリアデザイン」力

「キャリア」という言葉の語源をラテン語に求めれば、ある研究者は16世紀まで遡るとしています。古い言葉だけに時代により様々な意味をもち今日に伝えられていて「キャリア」という言葉を一言で定義することを難しくしています。しかし、ここではキャリアとは、「労働・職業人生に限定せず、個人が自律的に選び取っていく、人生の諸過程（ライフプロセス）であり、結果として個人固有の生き方（ライフスタイル）を表現するもの」と考えることにしましょう。

これまで、わたくしたちは自らキャリアを選び取る、自分でデザインする、というよりも所属する組織（最小単位は家庭）にお任せする、そこでの生き方を自らのキャリアと考えてきたのかもしれません。しかし先に記しましたように、これまで拠り所としていた組織やそこでの価値観は大きな変化に直面し揺らいでいます。

人は誰も自分らしく自らの人生を歩きたいと思っているでしょう。ですから家庭人、職業人、地域人として、どのような生き方を選択するのか、個人が自律的に選択するのが本来自然の姿です。自らに変化をもたらす社会の動きに戸惑うかもしれません。しかし、それこそがキ

ャリアを選択する力、キャリアデザイン力を養う出発点なのです。人生の節目、節目で、これまでのキャリアを振り返り、社会の変化に対応しながら、その後のキャリアを自分自身で設計する。何を選び、何を選ばないかを判断していく。必要に応じて振り返り、自己評価し、修正していく。こうしたキャリアを自分自身で描く力、キャリアデザインをする力は、今後ますます、人生をよりよく生きるために、生涯を通じて求められる基盤能力になるでしょう。

今後の群馬キャリアデザイン支援事業に期待する

すでに記したキャリアを自分自身で描く力、キャリアデザイン力の源にあるのは、社会の需要や技術の変化により陳腐化する可能性のある表層的な職業スキルを超越した個人の「変化対応能力」です。これは生涯にわたる学習により形成されます。具体的には、経験の蓄積、問題の発見とその解決のために必要なスキルや情報の獲得等を主体的に進めることです。この視点から人々の生涯にわたる学習を支え、自己成長・自己実現を支援する機関である群馬県生涯学習センターが県民のキャリアデザインを支援する事業を手がけられることに大きな意義を感じています。

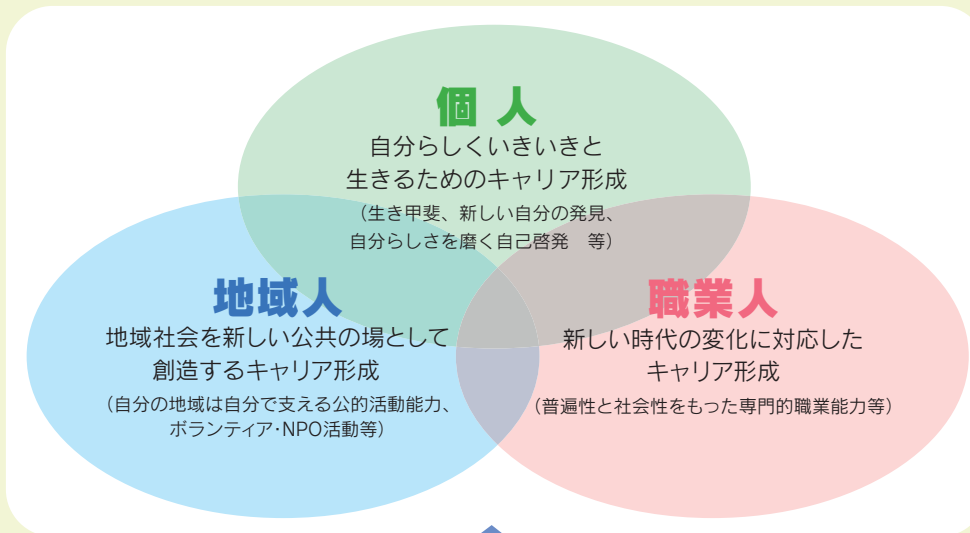
1947年から1949年に生まれたいわゆる団塊の世代の就業者数は539万人（2000年国勢調査）、この人々が2007年から定年退職を迎えます。多くの人々がキャリアの節目を迎えるわけです。この方々のキャリアデザインを支援し、地域人としての新たなステージへの移行を円滑にする団塊シニアの取組も、差し迫ったテーマだけに、地域づくりのための人材育成に多くの知見をもたらしてくれるものと思います。さらに生涯学習の拡がりの中で、地域活動支援やキャリア教育支援などを学んだ方々が、自らのキャリアを充実させるとともに、地域で活動する機会の提供を視野に入れた学校教育支援への取組も、他の関係機関や団体と連携により可能になるものです。行政や関係機関と地域の人々との間に立ち、地域の資源や行政諸機関・団体とをネットワーク化する新たな役割にも大いに期待したいと思います。

群馬キャリアデザイン支援事業概念図

「キャリアデザイン」のイメージ

自分のキャリア（生き方・働き方）は自分でデザインし、
個人・地域人・職業人としての統合的な自己成長・自己実現に向かって、
必要な能力の開発・向上を図り行動する

個人・地域人・職業人としての統合的な自己成長・自己実現



「生き方・働き方の問い直し」と「キャリア形成の目標・方法の明確化」

現在及び将来の生き方・働き方への疑問・不安、自分らしさへの心の揺らぎ
(人生の節目節目において自己を振り返り、「キャリア」を考える)

群馬キャリアデザイン支援事業

- (目的) 1 一人ひとりが生涯輝き続ける充実した豊かな人生の実現
2 新しい地域社会の創造への関心と参画意識の醸成

<教育文化事業団（生涯学習センター）の役割>

- 1 キャリアデザインの意義や必要性の普及啓発
- 2 キャリア形成を支援する関係機関・団体等との連携強化及び学習情報提供体制の充実整備
- 3 生涯学習の視点に立ったキャリアデザインの技法や学習プログラムの開発研究
- 4 新しい出会いやコミュニケーションの場の創造及び学習成果の活用や機会の充実支援

<教育文化事業団（生涯学習センター）の主な支援内容>

- 1 キャリアデザイン支援推進会議の開催（関係機関・団体等への政策提言、学習プログラム検討等）
- 2 生涯学習情報提供・相談システム（「ぐんま県民カレッジ」「まなびねっとぐんま」）の充実整備
- 3 キャリアデザインの考え方の普及・広報及びキャリアデザイン支援講座の開催
- 4 団塊シニアに関する調査研究及び団塊シニア支援講座の開催等

※「生涯学習ぐんま40号 特集キャリアデザインの支援」(H16.3発行)8Pを一部訂正

群馬キャリアデザイン支援事業の経緯

○14年度（1年次）：【基礎的な調査・研究】

- (1) 関連情報の収集・分析
- (2) 関連機関・団体等のヒアリング

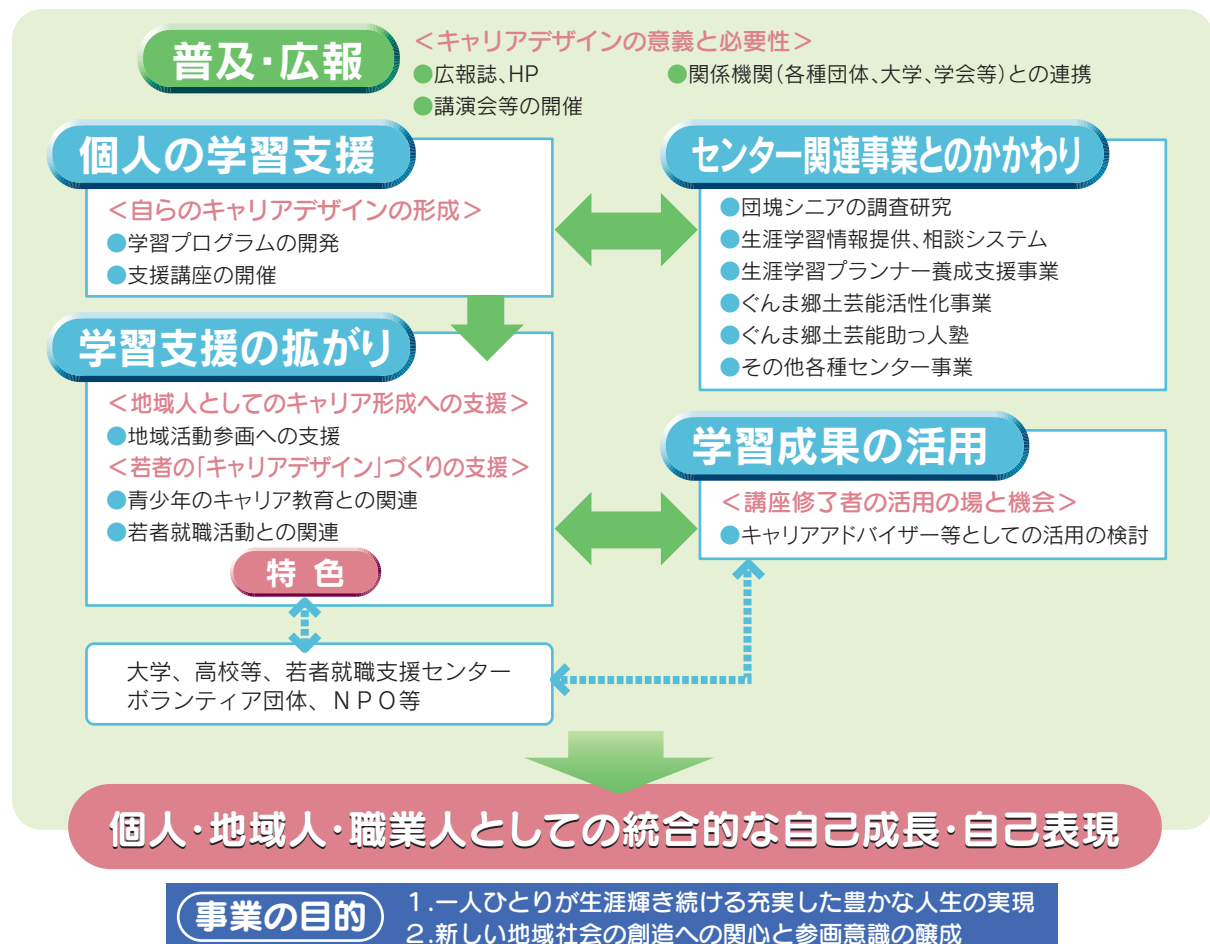
○15年度（2年次）：【基本的な考え方やセンターの役割等の検討・協議】

- (1) 「群馬キャリアアップ支援事業検討懇談会」の設置
 - ・検討懇談会を年3回開催し、キャリアに関する基本的な考え方を討議
 - ・検討の結果、16年度から事業名を「キャリアアップ支援」から「キャリアデザイン支援」へ変更
 - ・検討懇談会のまとめを、「生涯学習ぐんま第40号『特集・キャリアデザインの支援』」として作成・配付
- (2) 普及啓発活動の一環として、「キャリアアップシンポジウム～新しい時代の生き方・働き方を考える～」を開催

○16年度（3年次）：【具体的事業推進に係る検討・協議およびモデル事業の実施】

- (1) 「群馬キャリアデザイン支援事業推進会議」の設置
 - ・モデル事業「群馬キャリアデザイン支援講座」等の内容・方法の検討
 - ・17年度事業への意見、要望及び各種提言等
 - ・推進会議の提言等の普及啓発資料の作成・配付
- (2) モデル事業「群馬キャリアデザイン講演会、支援講座Ⅰ（基礎編）及び支援講座Ⅱ（キャリア教育支援編）」の開催

平成16年度の支援事業概要図



平成16年度 群馬キャリアデザイン支援講座の概要

■支援講座Ⅰ（基礎編）：＜個人・地域人としてのキャリアデザイン支援＞

○目的

キャリアデザインの考え方を理解し、自分のキャリア（生き方・働き方）は自分でデザインし、個人・地域人・職業人としての統合的な自己成長・自己実現に向かうための基礎的な能力の向上を図る。

○内容（会場：群馬県生涯学習センター）

	月日・時間	会場・定員	学習内容・方法及び講師
1	11月27日(土) 14:00～16:00	第1研修室 100名 公開講座	【講演】「明日の自分を拓くキャリアデザイン」 ●「キャリアデザイン」とは…、その社会的背景と意義、必要性 ●新しい時代の生き方と働き方 講師：東京経済大学教授 梅澤 正
2	12月11日(土) 14:00～16:00	視聴覚室 30名	【講義・実習】「キャリアデザインの実際」 ●「キャリアデザイン」の方法と手順、留意点 ●自分自身の「キャリアデザイン」 講師：ライトマネジメントコンサルタンツジャパンコンサルティング事業部 アソシエイト・ディレクター 小籠 和子
3	12月18日(土) 14:00～16:30	視聴覚室 30名	【講義】「職業人から地域人へのキャリアデザイン」 ●地域人としてのキャリア形成の方法 講師：高崎経済大学地域政策学部長 大宮 登 【事例発表】「地域人としてのキャリアデザインの実際」 講師：里山クラブ(千代田町)主宰 川原 幸司

■支援講座Ⅱ（キャリア教育支援編）：＜青少年のキャリアデザイン支援＞

○目的

キャリアデザインの視点から、青少年のキャリア教育の現状と課題及びその支援方法等の基礎を学び、新しい時代の生き方・働き方について考える一契機とする。

○内容（会場：群馬県生涯学習センター）

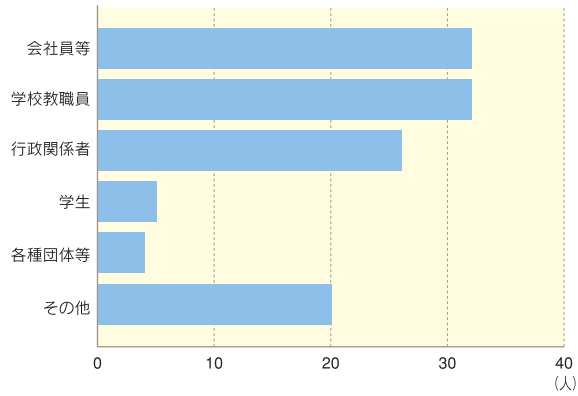
	月日・時間	会場・定員	学習内容・方法及び講師
1	1月22日(土) 14:00～16:00	視聴覚室 30名	【講義】 「新しい時代の生き方・働き方を考えるキャリア教育」 講師：法政大学キャリアデザイン学部教授 川喜多 喬
2	1月29日(土) 14:00～16:00	視聴覚室 30名	【リレートーク・討議】 「若者とともに考えるキャリア教育の現状と課題」 (株)群馬電子計算センター管理部マネージャー (キャリアコンサルタント) 女屋かほる 群馬県経営者協会インターンシップ担当 山岸 正毅 若者社会活動支援NPO法人DNA代表 渡邊 大輔 群馬県教育委員会高校教育課指導主事 閑野 泉 司会 高崎健康福祉大学短期大学部専任講師 眞保 智子 ＜討議には県内大学生も参加＞

平成16年度群馬キャリアデザイン支援講座の成果

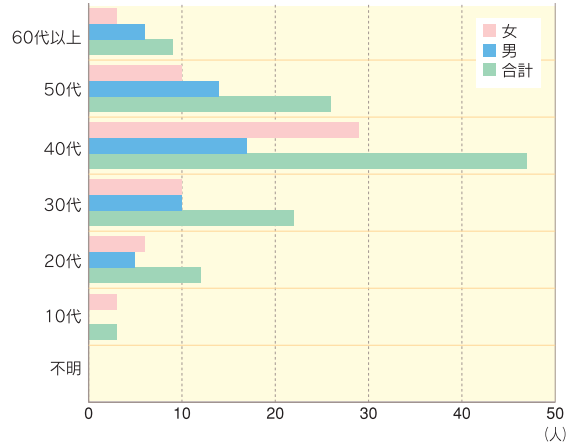
申込者内訳

【支援講座Ⅰ(基礎編)】：申込者総数122名

職業別

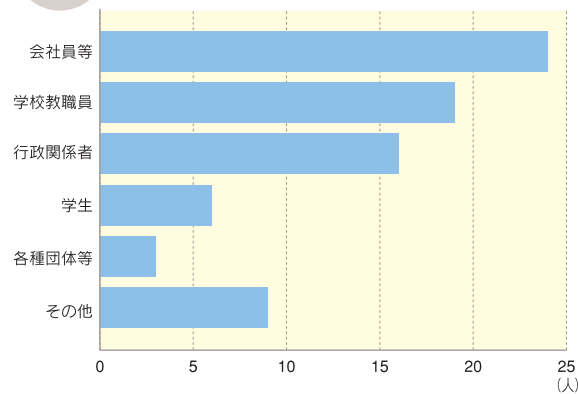


年齢別

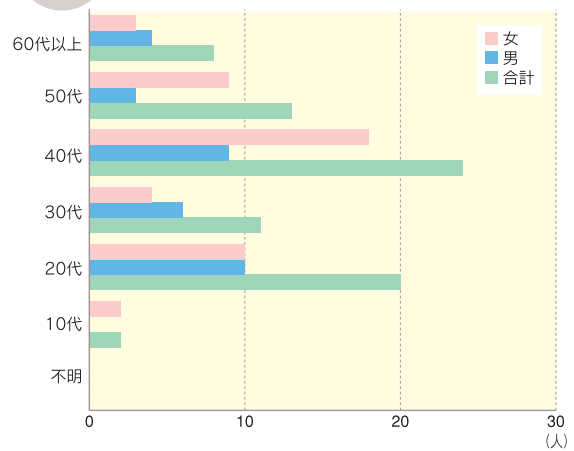


【支援講座Ⅱ(キャリア教育支援編)】：申込者総数79名

職業別



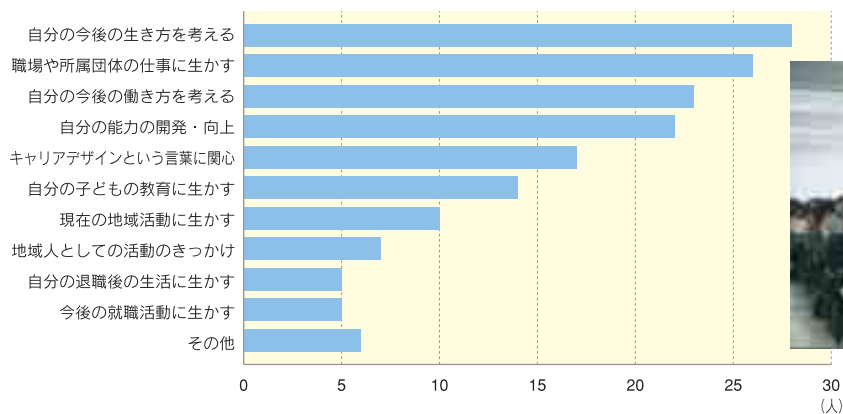
年齢別



アンケート結果

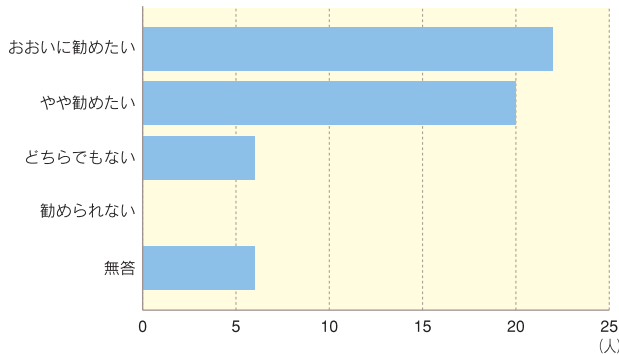
【支援講座Ⅰ(基礎編)】 <回収数60>

<この講座に参加した動機は?>



【支援講座Ⅰ】1日目の様子

< 知り合いや同僚にこの講座の参加を勧めたいと思いますか？ >



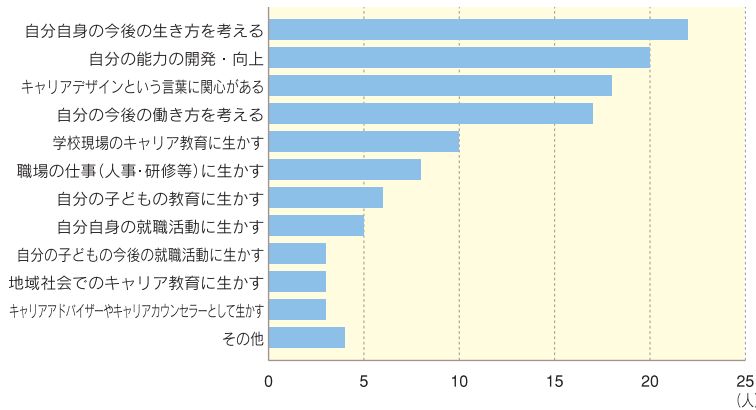
「支援講座Ⅰ」3日目の様子

< この講座への意見や感想をお聞かせください > (一部抜粋)

- とにかく元気の出る講座でした。(40代・女性)
- 今後の生き方、第二の人生の参考にしたいと思います。(50代・男性)
- 40代後半になり、生活の安定・守りに入ってしまったが、まだまだ自分を磨き、努力することが大切だと思いました。(40代・女性)
- ただ流されていた自分にしっかりとした目標が見つかった気がします。普通の主婦でも社会の役に立てるように地域とたくさんかわっていかうと思います。(40代・女性)

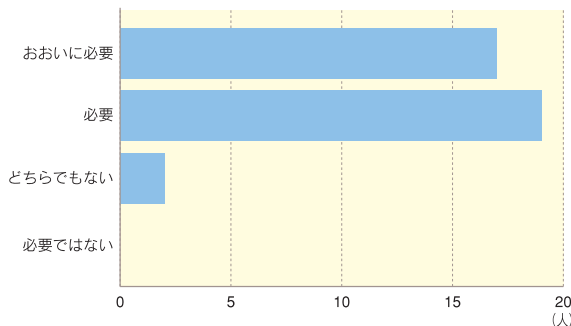
【支援講座Ⅱ(キャリア教育支援編)】 < 回収数42 >

< この講座に参加した動機は？ >



「支援講座Ⅱ」1日目の様子

< この講座は、今後とも実施する必要があると思いますか？ >



「支援講座Ⅱ」2日目の様子

< この講座への意見や感想をお聞かせください > (一部抜粋)

- キャリア教育は、これからの社会にさらに必要とされる教育であると強く感じました。(50代・男性)
- 勤務先で能力評価が導入され、「キャリア開発」の説明会もあり、今後もキャリアについて学びたい。(40代・女性)
- 今後学校での進路指導、教科指導に役立てていきたい。(20代・男性)
- 今後も、継続的に進めていただきたいと思います。(40代・男性)
- もっと若者層の参加を増やすために、若者への広報活動を積極的にすべき。(20代・女性)
- 講座のプログラムの中に、少人数の会話(対話)等をいれてもよい。(40代・男性)

今後のキャリアデザイン支援事業のあり方（提言）

今年度の群馬キャリアデザイン支援事業推進会議から、今後の実効ある事業の推進にあたり、生涯学習センターに対する、次のような具体的な取組や事業の方向性について、提言がありました。

【普及・広報】

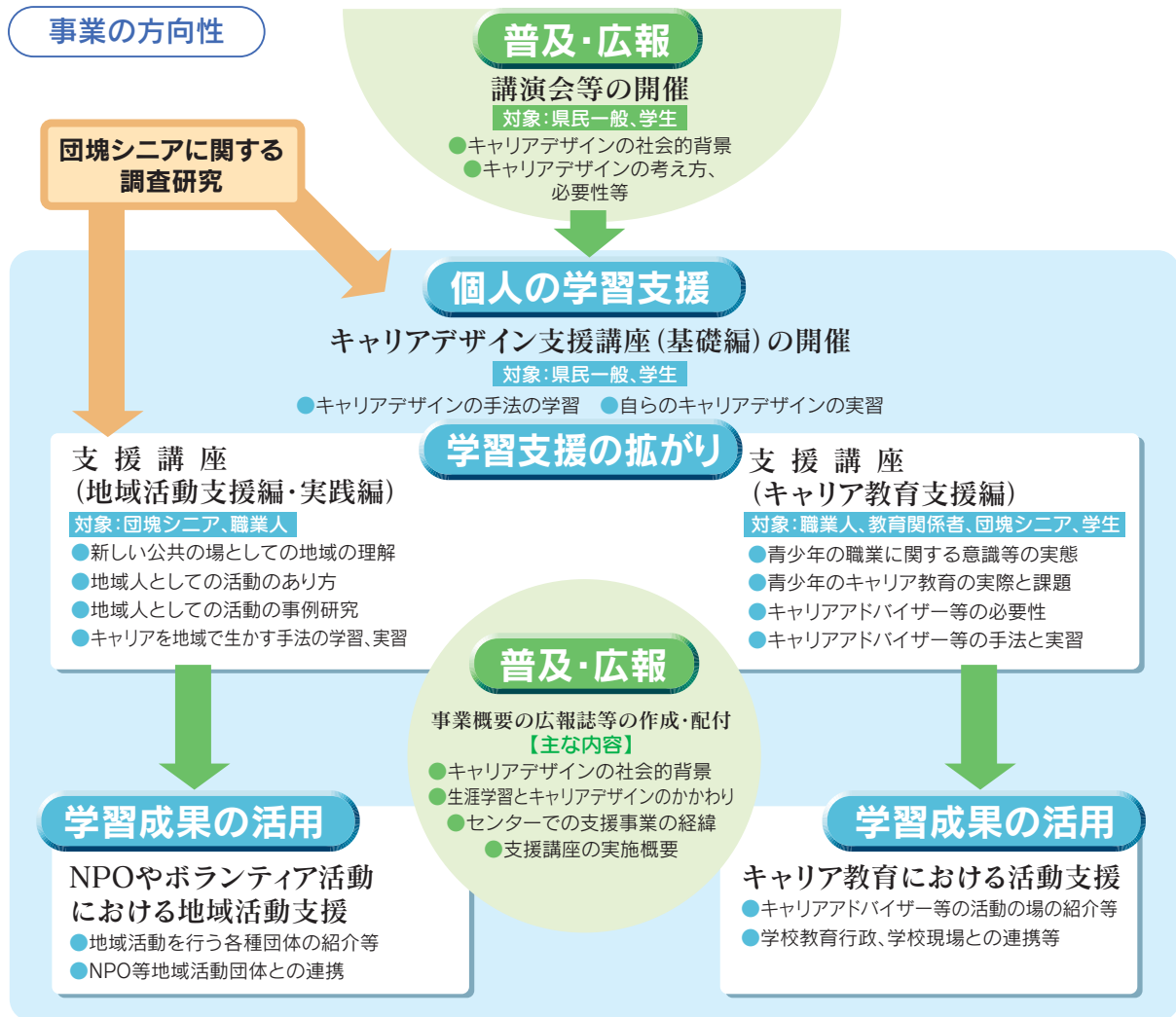
- 支援講座の開催や広報誌の作成・配付、マスコミ等を通して、多くの県民の方々に生涯学習活動支援の観点からキャリアデザインの考え方の普及に努める

【体制整備】

- 多様な関係機関・団体と連携した支援事業の推進体制を整備するため、コーディネーター機能の充実を図る
- 学習成果の活用を想定した支援事業全体のシステムづくりを推進する

【学習プログラム研究開発】

- 公民館等でも活用できる学習プログラムの研究・開発を推進する
- 具体的なフィールドを設定して、具体的な地域づくり活動に結びつくような学習プログラムの開発に努める
- 「キャリアアドバイザー」の活用も視野に入れた、青少年のキャリア教育（学習）支援の学習プログラムの開発に努める



(参考) 平成16年度群馬キャリアデザイン支援事業推進会議委員 (○：座長)

(五十音順・敬称略)

阿部 和彦：連合群馬 副事務局長
 五十嵐亮二：社団法人群馬県経営者協会 課長代理
 大山 隆幸：県教育委員会生涯学習課補佐（企画情報GL）
 関野 泉：県教育委員会高校教育課指導主事
 櫻井 常矢：高崎経済大学専任講師
 志村 隆雄：高崎市教育委員会教育部中央公民館長
 眞保 智子：高崎健康福祉大学短期大学部専任講師

田中 敬忠：NHK文化センター前橋支社長
 温井 眞一：県総務局地域創造課次長（地域活性化GL）
 三田 朋子：NPO法人DNA(Design Net-works Association)理事
 ○武藤 英男：群馬大学名誉教授
 山口 憲二：新島学園短期大学教授
 横川 弘：県産業経済局労働政策課次長（政策企画GL）
 吉田 恵子：県社会教育委員・専門学校講師